

平成30年度第4回釧路圏域地域医療構想調整会議議事録

平成31年3月20日（水）18:30～
釧路生涯学習センター特別会議室801

1 開会

2 保健環境部長挨拶

3 変更のあった調整会議委員の紹介

北海道看護協会釧路支部 服部 紀美子 氏

4 議事

(1) 地域医療構想推進シート（案）について

事務局からたたき台に対する意見と対応状況について説明し、地域医療構想推進シート（案）について了承を得た。

(2) 地域医療構想に係る意見交換

事務局から次年度のスケジュールや関連データ等について説明後、下記のとおり意見交換を行った。

5 意見交換内容

(1) 参考資料に関する質問・意見

釧路赤十字病院

根室のお話がありましたが、平成25年では根室管内の自給率が70%というデータになっていました。先日、平成28年のデータを見せていただいたところ、それが60%に下がっている。この3年間で釧路に10%増えているという、非常に早い変化が起きていると思うんですね。市立根室病院とか中標津町立病院がどの程度努力なさっているかとかはそのデータでは分からないんですけど、40%が釧路の方に来ているということで、例えば別海町なんかは50%近く釧路に来ているわけで、医療圏域が急速に組み込まれてきているのではないかと思われ、こうした現実も考慮しなければならないのではないかと。昨年、藤森先生の話がうかがいましたが、こうしたデータを含めて道庁の方から、お話しをお聞きしたいと思います。

事務局

根室の患者がどれくらい入ってきているのかという棒グラフのデータのことかと思いますが、そこをさらに突っ込んだデータがあるのか確認させていただき提供できるものがあればお示ししたいと思います。

議長

全道の会議でも函館圏の先生が檜山の方とも一緒になってやらなければ単独で考えても前に進めないんじゃないかという話があったんですけど、釧路地域も同じだということはお話でよくあるんですけど、そういったことで、日赤病院さんがおっしゃったデータでお示ししていただければ、今後根室圏と合同の会議等を開催する機会を持つことになった場合、大変有意義かなと思いますので、よろしくをお願いします。

(2) 回復期病床に関する認識について

市立釧路総合病院

先日の北海道の会議でも、いわゆる急性期と報告している医療機関でも、その中でかなり回復期と言われる患者さんが入っている。そのために新たな基準作りを今やっていますけど、各都道府県毎に、入院期間や手術、重症度で分けるとかいうことで試算すると、かなり将来の姿にあった数値が出てくるんですよ。ですから、回復期病棟という名前は付いていないですけど、それぞれの急性期の病院に回復期の患者が入っているということは言われているので、その数字に関しては私はあまり気にしていないんですけどね。

北海道病院協会釧路支部

孝仁会記念病院の方は急性期で、ICUとかSCUとかあるところは一部高度急性期でやってますけど、星が浦病院に関しては地域包括ケア病棟というのを持っていて、そこは回復期病棟で、脳とか心臓とか回復期リハビリテーションが必要なので、ニーズが結構あるので力を入れてやっているところですけど、やはり釧路管内は回復期病棟が少ないかなと思っていますけど。

釧路労災病院

去年の11月からシミュレーションを始めまして、今年2月から地域包括ケア病棟50床を開設しております。病棟は既に44床近く埋まっており、今のところ、院外からの患者を受け入れる余裕がない状況です。具体的に考えてはいませんが、将来的に回復期病棟拡張の可能性はあると思います。

釧路赤十字病院

私どもは回復期を平成27年に立ち上げたわけですけど、結局こういう議論をするということは、地域包括ケアシステムを考えていくことだと思いますので、地域包括ケア病棟は3年間の経験があるんですけど、急性期を脱し、その後どうするのかということ、在宅というか地域にどうやって持って行くかということになりますが、なかなか難しく、まだ過渡期という感じがします。

ですから、私ども訪問看護ステーション持っておりますけど、もっと色々なところと連携して、釧路地区のシステム作りのお手伝いするような格好で展開を考えています。もちろん急性期病棟に関しては、釧路管内で考えますとベッドとしては余剰であろうとは私としても正直思っています。ここにも書いておりますが、適正な運用というものを頭に入れながらやっていくということになると思います。

(3) 在宅医療について

釧路市

第7期介護保険計画において医療と介護の連携の推進、認知症施策の推進そして生活支援、介護予防サービスの基盤整備の推進という3つの点に視点をおきながら、システムの構築に向けた取組を進めることとしています。

(4) 協議に必要なデータについて

市立釧路総合病院

どんなデータがほしいと言われると、もう既にかかなり詳細なデータが調整会議の中で出ているのではないかと思います。例えば、それぞれの病院でどんな症例数をどのくらいやっているか。それが民間病院でどれくらいやっているか。公的病院でどれくらいやっているか。これが公的病院でやっているのなら民間病院に全部やらせろという官と民の戦いみたいになっている様相のところもあると聞いています。

釧路地域がそんなふうにならないように、今までは現状の認識で終わってい

ますけど、先ほどからもありますとおり、釧路と根室の三次医療圏で将来の地域完結型医療をいかに守れるかという視点を重視して、今後あるべき姿というのをどこに置くのかということ、考えていくということかと思えます。

(5) 地域（市町村）の取組の進捗状況及び訪問診療の状況について

釧路町

平成32年度の地域密着型特養の建設に向けて、先日公募を行い1法人から応募がありましたが、これを取り下げるということでその要因が介護職員を確保できないということが主な理由とのことで、今後また公募をかけ、建設に向けていきたいという状況になっています。現在市内も含めて特養の建設が続いているため介護職員の奪い合いと言ったら言葉は悪いですけど、非常に厳しい状況になっています。

浜中町

公営住宅の管理計画の中で、立て替えに併せて在宅介護に配慮した住宅を建てていこうという構想があって段階的にやっています。

標茶町

介護医療院の開設準備ということで記載させてもらっているんですが、町立病院の開きベッドを有効活用できないかということで話が進められまして、その中でサテライトの特養として話を進めてきたんですけど、人員の面と施設利用の面で中々難しいということで、介護医療院ということで方向転換し準備を進めてきているんですけど、これにつきましても、開設したときに介護職員の確保ができない。あるいは病院の中にこういった別の施設を設けるということで、感染症等々の対策が難しいのではないかととのことで、中々うまく進んでおらず、まだやるよといった決断まで至っていない状況です。本町にも特養があるんですけど、こちらにつきましても介護職員の募集をかけても集まらない状況で、今満床にならないように運営しているという状況もあって、今後そういった面を含めてどう高齢者の住まいを確保していくかが課題になっています。

鶴居村

村立の診療所に医師が1名おり、一部訪問診療を対応されていることはあります。ただ、医師1名であり、看護師が別のところに住んでいるということもあり、中々難しく、年間2件から3件くらいの実績かと認識しています。

白糠町

シートにありますとおり、在宅医療・介護連携推進事業の実施を通じまして、町内の三師会さんとも連携をとりながら、町民に対する相談支援や医療・介護関係者に向けて連携に関する研修会の開催、それからご承知のとおりつながり手帳ですね。これをつけることによりまして、本人の病気の状態や生活の状態を記録する手帳ということでございまして、個人のデータがこれを見ると分かるということで、こういったものを利用しながら在宅医療、介護サービスの提供体制というのを推進していくということで進めています。

厚岸町

あまり具体的な話はしていませんが、在宅医療に関しては、医師の不足、介護職員の不足もあり、中々難しい状況だとは認識しております。

議長

介護職員の不足という話がありましたが、基金を活用できる事業はありますか。

事務局

総合確保基金は医療分として国から配分されているものと介護分として配分されているものの2つあり、医療分については昨年7月に本庁が来たときにお示ししたが、介護分についても色々事業があり、人材育成に関するメニューもあるので、それも併せてお知らせできればと思っています。医療・介護ともに毎年事業に関する意見募集をしているので、そういった中で足りない部分は声を上げていただく方法があります。

医師会

在宅医療に関しては、医師の方でも考え方があり、やる先生とやらない先生とで分かれるんですよね。在宅の講演を聞きに来ている先生の中にも、訪問診療に行けなくて基本的にはできないという声が多かったのが非常に印象に残っています。基本的にはやっていただける先生に情報を集めていくというのが非常に大切なのかなというのがあって、やらない先生に対してやれって言うことは中々難しいことだと思うんですけど、やりたいという先生が実際いらっしゃるの、そういう先生に持って行く方がスムーズに話が進むと思うんですよね。開業医の先生の中には、在宅を一所懸命やっていきたいという先生がおられるので、そういうところに持って行く。

それと、バックベッドじゃないですけどここにおられる市立病院、日赤、労災、孝仁会の先生達のところに何かあったときにすぐ引き受けてくれるということがあれば、もう少しやる先生も増えるのかなと思います。

(6) 歯科医師会、薬剤師会、看護協会の取組状況等について

歯科医師会

6年前に北海道の委託事業として、在宅歯科医療連携室という事業を始めまして、釧路根室地域の歯科医療連携室ということで運用しています。主に在宅歯科医療と色々多職種の方々の連携を推進するための室なのですが、相談員として歯科衛生士を何名か雇ってまして、釧路根室管内から相談があると、相談員が出向いて多職種の方々と相談したり、相談を受けてから、登録している歯科医師の先生、今現在歯科医師会150名ほどの会員がいるのですが、80名以上登録されておりまして、そちらの先生にお願いして最終的には希望される患者には在宅での歯科医療に取り組んでいます。

薬剤師会

薬剤師会の方では、先月だったんですが、在宅に関して年1回訪問薬剤管理指導の推進事業ということで、これは道の補助事業ということで、5年間続けてまいりました。平成30年度で終了するんですけど、この目的は在宅に薬剤師をもっと活用してほしいということで、多職種の皆様に集まっていただいて、そのことを皆さんに理解していただくということなんです。医師会、歯科医師会、保健所、地域包括支援センターなど関係各位の皆様に集まっていただいて講演会をして、連携を深めるという形で行っております。ただ、道の補助事業が今年度で終了するものですから、来年からどういう形でこれを前に進めていくかというのが、問題になろうかと思っています。

看護協会釧路支部

看護協会の北海道支部の役員会でも、やはり訪問看護ステーションの看護師の不足という現状がありました。今は大きな病院との連携で退院調整とか、看護師を訪問看護ステーションに派遣することを考えてみたらどうかというのが案として出てきました。これがどういうふうになるかは分からないんですけど、やはり看護職も介護職も足りないという各施設の声を聞いています。管内から他に出さない、流出していかない、それを止めなければいけないという思いがあり、やはり釧路で医療を支えていく、訪問看護ステーションに関しても同じように支えていきたいと思っています。

(7) 保健師の状況について

釧路町

教育課程が変わってきているという状況で、保健師の育成をする人数というのが減っているのが現状です。保健師の希望をする学生が何名大学で養成されるかというのが1つの大きな課題なんだろうと思うんですが、院からじゃなければ保健師の資格が取れないと変わってきているものですから、若い方は中央にはお勤めされると思うんです。郡部にくると非常に苦しく、釧路町も今年度求人しましたがこないということで、引き続き求人をかけていかなければならない状況でこれは管内どこも同じ状況になっているのかなと思います。

議長

次年度においてもこうした話し合いを重ねていきたいと考えますので、皆さんよろしくお願いします。

6 閉会